

教 育 方 針	【学校教育目標】「夢に向かって のびる 杉っ子 」 ～わくわく登校 生き生き学習 笑顔でつながるみんなの学校 ～ 【めざす児童像】 ○進んで学ぶ子 【確かな学力】 ○郷土を愛する子 【高い自己有用感】 ○強い心と体をつくる子 【健やかな体】 ○心を磨く子 【豊かな心】	重 点 目 標	①互いのよさを認め合い、つながり合い、高め合う学習集団作り ②特別な教育的ニーズのある児童が生き生きと学ぶことができる 特別支援教育・教育相談の充実 ③他者の考えを尊重し、さわやかな自己主張で互いの納得解を見 つけ出そうとする話し合い活動の充実 ④ ICT を活用し、協働的で、個別最適な学びの一体的な充実をめ ざす授業づくり ⑤自らの生活や健康を管理し、自律した生活を送ろうとす る児童の育成 ⑥地域人材との交流学习を中心に、WIN × 2 のふるさとキ ャリア教育の推進 ⑦メンターチーム、学年団、校務分掌を中心とした次世代 育成システムの構築 ⑧子供と向き合う時間を生み出す業務改善、働き方改革
------------	---	------------	---

（ 4：十分に達成できた 3：ほぼ達成できた 2：あまり達成できず 1：ほとんど達成できず）								
評価項目	具体項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価基準	自己評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
確 か な 学 力	○話し合い活動で身に付けた力を他教科、他領域へ広げる。	○話し合いの仕方を理解しているが、他教科、他領域へ広がっていない。	○話し合いで身に付けた力を活かして、教科等の理解を深めている。	○話し合いを活動を広げたり整理したりするために、話形を使う。（2 学期以降は思考ツールなども活用）	○学級経営案の 1 学期の評価とリンクさせる。	2.9	・語型を意識し、他教科でも使えるようになってきた。類似、違いを視点に比較ができる児童が見られようになった。	・すぎっ子タイムや授業の開始などに、漢字や計算などの基礎的な学力が身につくようにプリント、タブレットを活用する。
	○読み取りの力を向上させるために、語彙を増やす。	○考えや思いを伝える語彙が少ない。	○語彙が増え、考えや思いを伝えている。	○教室に掲示した「ことばの宝箱」を使った授業づくりや文作りを行い、語彙を増やす。	○学級経営案の 1 学期の評価とリンクさせる。	2.9	・言葉調べや文づくりが定着してきた。教材と関連させて、文作りに適した言葉が出たときに取り組みめるとよりよい。辞書引きに時間がかかるとタブレットで調べることにならないように留意したい。	・国語の学習の始まりに音読や文作りに継続して取り組む。
	○読書活動、図書館活用を充実させる。	○学習での図書館利用が十分でなく、貸し出し冊数も減っている。	○本を借りる子や本で調べる子が増えている。	○国語、社会、総合等の学習で学校図書館を利用する。	○学期に国語で 2 単元以上図書館を利用できたか。（3 学期は 1 単元以上）	2.8	・辞書引きに時間がかかるとタブレットで調べることにならないように留意したい。	・図書館活用に関してやや改善傾向である。来年度もさらに図書館活用の取り組みを行う。具体的には読書記録を年度始めから音読カードに貼る形式で全クラスで共通して取り組む。
豊 か な 心	○自己有用感、自己肯定感の育成	○様々な活動や学習に前向きな気持ちで取り組む児童が増えている。一方で、自分の良さや役立ち感に気づかず、後ろ向きな発言をする児童も見られる。	○学校や学級への所属感を高め、役立ち感を味わい、笑顔で生活している。	○学級活動（1）でみんなで話し合っ て決めたこと（遊びや役割など）を実 践し、ふり返る活動を通し、達成感をも ったり次回への意欲を高めたりする。 ○あいさつ標語の募集をするなど、児 童会活動を充実させることであいさつ への意識を高める。 ○学級活動（2）で自己決定した取り 組みをあいさつ月間で実践する。 （6 月、1 1 月）	◆ i-check の I（自己認識）-2（自 己肯定感）-④（成功体験と自信）の 項目において、i スコア 2.8 以上。	2.7	・ 2 学期の i スコアは各学年が 2.8 以上のスコアであった。学級間で差がある学年もあるが、各学級が児童の実態に応じて指導をしている。	・ i-check の結果から児童の実態に応じ て課題点としてあげたところを重点的 に指導していくことを、来年度へ引き 継ぐ。年度初めに学年で統一してグル ープエンカウンターやレクリエーショ ンを取り入れる。（4 月）
	○あいさつを当たり前にする子の育成	○人とすれ違う際に自然とあいさつをする児童がいる。一方で、あいさつが習慣化していない児童も見られる。	○いつでも、どこでも、誰にでもあいさつをしている。		◆児童アンケートであいさつに関する項目で肯定的意見が 80 %以上。	2.7	・ アンケート結果においては、86.9 %が肯定的回答であったが、応用的なあいさつはできていない。	・「おはよう」だけでなく、あいさつの種類を増やしていくような学級指導とともに、家庭啓発をしていく。
						2.8		・「あいさつ〇〇デー」のような、楽しみながら取り組める活動をする。
健 や か な 体	○体力の向上	○新体力テストで例年に比べ、シャトルラン、反復横跳びが低い。	○自分の体力を向上させようとする意識を持ち、運動する。	○なわとびを通年で行い、持久力をつけ、マラソン大会にも目標を持って取り組む。 ○健やかな体と体力づくりのために給食での残量を減らす。	◆シャトルラン、反復横跳びの体力結果を維持または例年の数値に近づける。 ◆各学期のはじめとおわりに、各学級で実態を把握するとともに、意識の変容を見取る。 ◆児童アンケート「良い姿勢で学習した」等の達成率 75 %以上を目指す。 ◆年 2 回のメディコンウィークに進んで取り組み、意識の向上を図る。	2.6	・ シャトルランは向上、反復横跳びは数値の減少が見られた。	・体育の体づくり運動の学習の中で、敏捷性を高められるゲームや活動を工夫し、縄とびを日常的に取り入れる。
	○体づくり	○事故やけがを未然に防ぐことができる運動能力や体幹づくりが課題	○良い姿勢を保持して学習できたり、自分のみを守るための運動能力を向上させようと努力したりする。	○朝の会で「ワンミニッツエクササイズ」をはじめとする運動等の実施や各学級で工夫した柔軟運動を行う。		2.7	・ 残菜の量が多く、一口も食べずに丸ごと残す児童もいる。クラスによっても差がある。	・給食時間の工夫、命をいただいていることへの感謝、調理員さんへの感謝など、学年学級に応じての指導をする。
	○メディアコントロールの推進	○タブレット使用等、メディアに関することが増加。	○正しくメディアを活用し、関わるができる。	○町教育会健康体育部の保小中の状況や課題、PTA 保体部での考察等を共通理解して生かす。		2.9	・ 柔軟運動等への取組は良好である。大きなけがも減り、姿勢への意識も良好である。	・柔軟運動等への取組は次年度も、継続して取り組んでいく。
温 か な つ な が り	○地域に出かけ、地域を知り、地域と繋がりようとする児童の育成	○分担により HP 担当の負担が軽減されたが、校外学習等学年行事の更新ができていない学年もあった。	○メディアの特長を活かしてタイムリーに情報発信している。高学年児童を中心に児童主体で情報発信を目指す。	○割り振られた担当が、月に 2 回情報を更新する。各学年で年間 2 回の更新と、高学年への HP の更新の呼びかけ。	◆年間行事、学年の校外学習等を更新している。	3.1	・ 概ね計画通りできたが、一部の教職員の更新が多かったため、職員研修会を企画して全員が担当できるよう研修した。	・ 次年度も引き続き担当を振り分けて、計画的に HP の更新を行う。また、教務作成の週案の中に更新担当を記入し周知する。
		○ 6 地区の掲示板のしている児童や事業参加する児童の割合は増えてるものの、多くはない。	○ 6 地区の行事や特色を知り、地域に関心と愛着をもっている。	○ 6 地区の特色を教材に取り入れた学習をした際には、その様子を職員室前の掲示版に載せる。	◆児童アンケートで肯定的な回答 7 割をめざす。掲示板を更新する。	2.7	・ 掲示の定期的な入れ替えは担任のみでは滞りがちだったため、教員業務支援員に依頼することで改善した。	・ 校外学習や地域ボランティアとの交流の様子を、新しく作成するのではなく、学年だよりを活用して、掲示するようにする。（教員業務支援員に依頼）
		○コミュニティ・スクールが発足し、地域コーディネーターとの連携によって、地域とのつながりが生まれつつある。	○コミュニティスクールを生かし、児童とボランティアさんとの個のつながりを深める。	○ボランティアさんとの活動の場合には紹介し、廊下掲示にも名前を入れる。	◆児童アンケートで肯定的な回答 7 割を目指す。	2.5	・ 年度末に職員室前の掲示物（地域への校外学習の様子など）を職員玄関前に移動する。	・ 次年度は掲示場所を、職員室前から職員玄関前に移動し、児童の目に届きやすいようにする。

